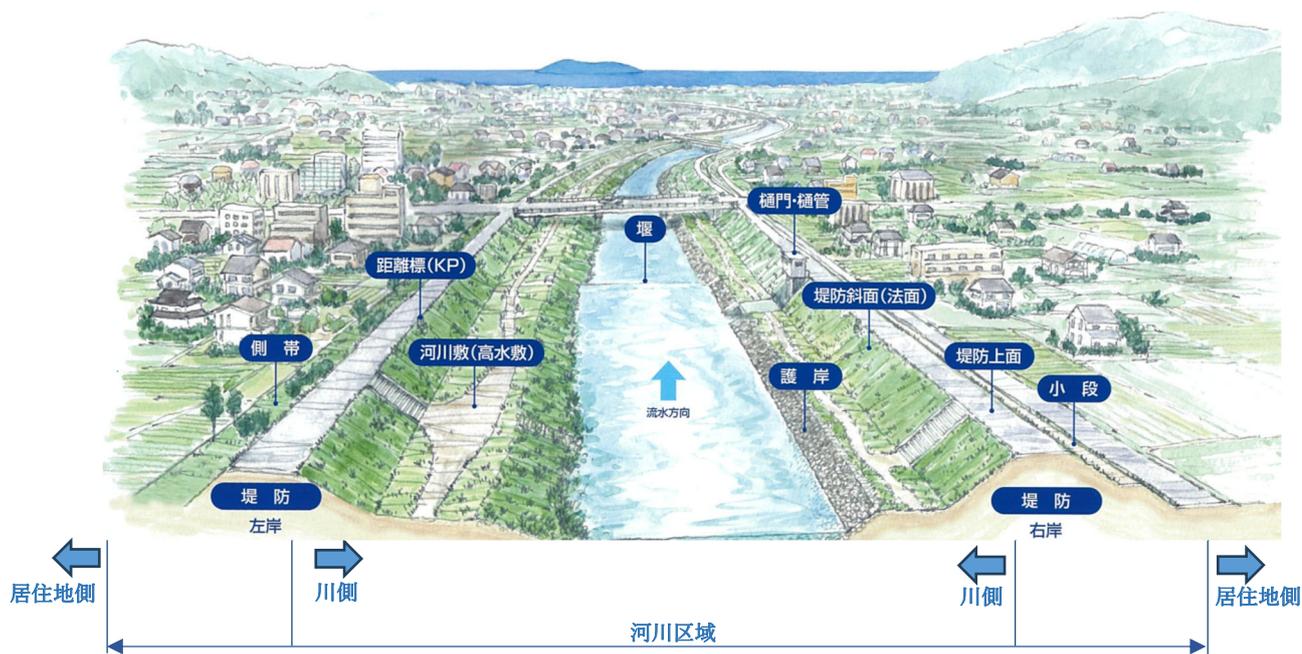


河川構造と名称の説明



河川区域

河川及び両岸の堤防までの範囲を「河川区域」と呼びます。河川区域は、洪水など災害の発生を防止するために必要な区域であり、河川法が適用される区域です。

堤防

「堤防」は、計画高水流量を安全に流下させることを目的として、両岸に築造されます。ほとんどの場合は盛土によりますが、特別な事情がある場合、コンクリートや鋼矢板で築造されることもあります。

右岸・左岸

うがん さがん

堤防を下流に向かって眺めたとき、右側を「右岸」、左側を「左岸」と呼んでいます。近年では「〇〇市側」、「〇〇地区側」など地名を用いて表現されることが多いです。

川側・居住地側

堤防を境にして、水が流れている方（河道がある方）を「川側」、反対の家屋や農地などがある方を「居住地側」と呼びます。

堤防上面

堤防の上部、天端とも呼ばれますが、本書中は「堤防上面」とします。近年ではほとんどがアスファルト舗装を施されています。

堤防斜面	堤防の法面（のりめん）とも呼ばれますが本書では「堤防斜面」とします。
護岸	河川の水が流れる力から川岸や堤防を守るために川側に設けられた施設を「護岸」と呼びます。護岸はコンクリートなどで斜面を覆うような構造となっています。
河川敷(高水敷)、 低水路	常に水が流れる部分を「低水路」、低水路より一段高い部分の敷地を「河川敷」と呼びます。平常時はグラウンドや公園など様々な形で利用されていますが、洪水時には水に浸かることもあります。
小段	堤防が高くなると安定性を保つために、「小段」と呼ばれる水平な部分を設けることがあります。小段は維持補修や水防活動を容易にする役割を持っています。
側帯	水防活動に利用する非常用土砂などを備蓄するため、また堤防の安定、環境保全などの目的で堤防の居住地側に土砂を積み上げた部分のことを「側帯」と呼びます。側帯が設置されている場所は、水防計画書などに示されています。
樋門・樋管	洪水時に居住地側の水路の水位より合流先の河川の水位の方が高くなった場合にその水が水路に逆流しないように設けられる施設です。
堰	農業用水、工業用水、水道用水などの水を取るために、河川を横断して水位を制御する施設を「堰」と呼びます。頭首工（とうしゅこう）、取水堰とも呼ばれます。
距離標(キロポスト)	河口または合流点からの距離（河川中心での距離）を表示する標識で、河川の管理に利用されています。